

「地域で頑張る企業・NPO」を“つたえ”“つなげる”

学生レポーター 取材まとめ

取材日時:平成 25 年 10 月 9 日(水)

取材先:株式会社ミズノ(四日市市)

レポーター名:狩野、田中、山田



社内も地域もプラスへ 株式会社ミズノ

—「地域にビジネスをさせていただいている」—

三重県四日市市にある「株式会社ミズノ」(以下ミズノ)の創業は古く、昭和 30 年に遡る。創業当時は「水野商店」という個人商店として鉄スクラップの回収業を数十年にわたり行ってきた。水野昌和社長は 2 代目にあたる。

水野社長が家業を継いだ平成 11 年当時は不法投棄の検挙率が高く、社会的にも産業廃棄物の不法投棄が問題視されていた。法律や条例が厳しくなり、今まで通りに産業廃棄物を処理するのが難しく、困っている企業が多くあることに気づいた水野社長は、産業廃棄物処理業に参入した。産業廃棄物は、適正に処理をしないと取引先企業のイメージに大きく関わるため、処理業者は企業としての信頼が重要視される。ゆえに平成 12 年、水野商店は「株式会社ミズノ」として株式会社化・法人化に至ったのである。

現在は金属くずや廃プラスチック、ガラス陶磁器くずなどの産業廃棄物の中間処理や鉄スクラップ・銅・銅線など金属類全般の受入れ・買い取り事業を行い、産業廃棄物処理の悩みに対して最適な処理方法を提案したり、コストダウンの方法を提案したりもしている。こうした事業を展開していくうちに、「地域にビジネスをさせていただいているから、地域に恩を返していこう」という思いを持ち、「エコ教室」や「地域清掃活動(エコレンジャー)」という地域貢献活動を始めようになった。

—会社内にも地域にもプラスになる地域貢献活動—

ミズノが地域貢献活動として行なっている「エコ教室」は、地元の小学校に出向き、リサイクルを中心に環境の大切さを伝えるものだ。毎年 6 月に地元の小学校の 4 年生を対象に行っており、小学生でも楽しんで学ぶことができるようクイズ形式で授業をする。きっかけは地元小学校からの工場見学の依頼を受け入れたことだ。「仕事として当たり前に行っていることが、子どもたちにとっては新鮮で勉強になり、刺激になることだとそのとき気づいた」「見学を受け入れて、説明して、喜んでもらうのが気持ちよかった。やってよかったなという気持ちになった」と水野社長は話す。こうした経験をして以来、小学校からの依頼を待つだけでなく、ミズノからエコ教室の提案をするようになった。



そしてミズノには、地域の環境を守るために活動する「エコレンジャー」がいる。「エコレンジャー」

(写真2) エコレンジャーのみなさん



とは、女性社員5人で結成されたエコユニットで、5人にはそれぞれ赤・青・黄・緑・桃のマフラーカラーがある。この5人の呼びかけで、地域の清掃活動をはじめとし、四日市大学とコラボレーションしての清掃活動、事務所の側面にアサガオやゴーヤを植えてつくるグリーンカーテンなど、さまざまなエコ活動に社内全体で取り組んでいる。

このような地域貢献活動は、実はミズノの周辺地域にとってプラスになるだけではない。ミズノで働く社員にとってもプラスになっているのだ。エコ教室は新入社員が中心になって実施するため、準備も大変だが、普段の業務で蓄積した知識やノウハウを小学生に説明することで、子どもに喜んでもらえたり、ありがとうと言われたりする。そうした経験が普段の仕事のモチベーションにつながっているのだ。エコレンジャーを中心とした活動は、社員同士のコミュニケーションの場になり、社員が一致団結するための助けになっている。こうした2つの面を持っている活動が、ミズノでは続けられている。

「お客様の『環境価値』が高まることにワクワクする会社」へ

現在ミズノは、産業廃棄物処理を依頼する企業と処理をするリサイクル施設を引き合わせる「MATCH-ONE」というマッチングビジネスに力を入れており、事業活動の範囲拡大を目指している。そのなかで、ミズノと取引をするリサイクル施設のネットワークが広がり、ミズノがおこなってきたエコ教室をやりたいというリサイクル施設があれば、そのままノウハウを提供することもある。そうすることで、エコ教室の幅が広がる可能性があるのだ。水野社長は本業でない地域貢献活動を続けていく思いとして「短期的な利益を目指してやっている会社はギスギスして、面白くなくなる。企業が健全な状態で続くためにも、本業から離れたこのような活動に力を入れられる余裕が大切」と話していた。

また、ミズノは、産業廃棄物処理という業界が持つマイナスイメージをプラスイメージに変えようとしている。そのためミズノは「お客様の『環境価値』が高まることにワクワクする会社」をクレド（信条）としている。廃棄物を出す企業に対し、廃棄物処理に関する情報提供をしたり、工場見学に来てもらったりと「一歩上へいくサービス」を提供している。

地域も、お客様も大切に思う心を原動力に、ミズノはこれからも本業も地域貢献活動も積極的に続けていく。

❖ 編集後記 ❖

なによりも印象に残り、プラスのイメージを持ったのは、産業廃棄物処理のマイナスイメージをプラスイメージへ変えたい、企業の廃棄物に対する意識を変えたいという水野社長の熱い思いです。企業の意識を変えたいと思っても、なんでそんなことまでやらなきゃいけないのかという意識の企業を変えるのは難しいようです。それでも少しずつ時間をかけて働きかけ、そこまでやらなきゃいけないという意識が変わる、そういうときにワクワクするという思いを知りました。また、こういった思いが社員に伝わり、オフィス内の活気につながっているのかなと感じました。会社全体でいいことを考えている、いいことをしたいと思っていることを実感した取材で、とても貴重な経験をさせてもらいました。